

平成20年度建設副産物実態調査結果について（北海道地方）

平成22年3月31日

北海道開発局

平成20年度に北海道地方の建設工事から排出された建設副産物^{注1)}について、排出量及び再資源化等の状況の調査結果をとりまとめましたので公表致します。

調査結果の概要

1. 排出量の動向

平成20年度の建設廃棄物の排出量は約381万トン、建設発生土の排出量は約1,176万^m³となりました。前回調査（平成17年度）に比して、建設廃棄物で約17%減、建設発生土で約42%減となりました。

2. 再資源化率等の状況

- ・建設発生木材^{注2)}、建設汚泥が大幅な増となり、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊は微増となりました。その結果、建設廃棄物の再資源化等率^{注3)}は増となりました。
- ・利用土砂の建設発生土利用率^{注4)}については減となりました。

	平成17年度	平成20年度	増減
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率 ^{注5)}	96.9%	98.9%	2.0%
コンクリート塊の再資源化率	95.3%	96.8%	1.5%
建設発生木材の再資源化率	72.4%	94.2%	21.8%
建設発生木材の再資源化等率	86.4%	96.2%	9.8%
建設汚泥の再資源化率	26.6%	51.8%	25.2%
建設汚泥の再資源化等率	53.3%	83.3%	30.0%
建設混合廃棄物の排出量	26.1 万トン	12.4 万トン	-13.7 万トン
建設廃棄物の再資源化等率	88.7%	94.5%	5.8%
利用土砂の建設発生土利用率	81.3%	76.4%	-4.9%

3. 「北海道地方建設リサイクル推進計画2008」の目標達成状況

建設発生木材（再資源化率、再資源化等率）及び建設汚泥（再資源化等率）、建設廃棄物（再資源化等率）については平成24年度目標を、既に達成しております。

	平成20年度 調査結果	平成22年度		平成24年度	
		中間目標値	平成20年度 結果との比較	目標値	平成20年度 結果との比較
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率	98.9%	99% 以上		99% 以上	
コンクリート塊の再資源化率	96.8%	98% 以上		98% 以上	
建設発生木材の再資源化率	94.2%	79%	達成	81%	達成
建設発生木材の再資源化等率	96.2%	95%	達成	95%以上	達成
建設汚泥の再資源化等率	83.3%	80%	達成	82%	達成
建設混合廃棄物の排出量削減(H17比)	-53% 減少	25% 削減	達成	30%削減	達成
建設廃棄物の再資源化等率	94.5%	93%	達成	94%	達成
利用土砂の建設発生土利用率	76.4%	85%		87%	

注1) 建設副産物：建設工事に伴って副次的に得られる物品であり、建設廃棄物(コンクリート塊、建設発生木材など)及び建設発生土(建設工事の際に搬出される土砂)の総称。

注2) 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

注3) 再資源化等率：建設廃棄物として排出された量に対する、再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計の割合。
なお、再資源化等とは、再資源化及び縮減のこと。

注4) 利用土砂の建設発生土利用率：土砂利用量（搬入土砂利用量＋現場内利用量）のうち土質改良を含む建設発生土利用量の割合。

注5) 再資源化率：建設廃棄物として排出された量に対する、再資源化された量と工事間利用された量の合計の割合。

平成20年度建設副産物実態調査結果参考資料

1. 排出量の動向 関連資料

- ・建設廃棄物は、前回調査(平成17年度)に比して約17%減である。
- ・建設発生土は、前回調査(平成17年度)に比して約42%減である。

(1) 建設廃棄物

表1. 建設廃棄物排出量の減少率

(単位: 万トン)

平成17年度場外排出量 (A)	457
平成20年度場外排出量 (B)	381
減少量 (C)=(A)-(B)	76
減少率 (C)÷(A)	16.6 %

表2. 建設廃棄物の排出状況

(単位: 万トン)

調査年度	場外排出量			
		再資源化量	縮減量	最終処分量
H17	457	394	12	52
H20	381	355	4	21

(2) 建設発生土

表3. 建設発生土の場外搬出量の減少率

(単位: 万m³)

平成17年度 (A)	2,035
平成20年度 (B)	1,176
減少量 (C)=(A)-(B)	859
減少率 (C)÷(A)	42.2 %

表4. 建設発生土の場外搬出状況

(単位: 万m³)

調査年度	場外搬出量				
		工事間利用	再資源化施設	海面処分場	内陸受入地
H17	2,035	605	26	0	1,404
H20	1,176	422	25		730

※海面処分場について、H17 調査において115 万 m³と搬出量全体の約1%であったことから、H20 調査においては搬出先の把握対象外としています。

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

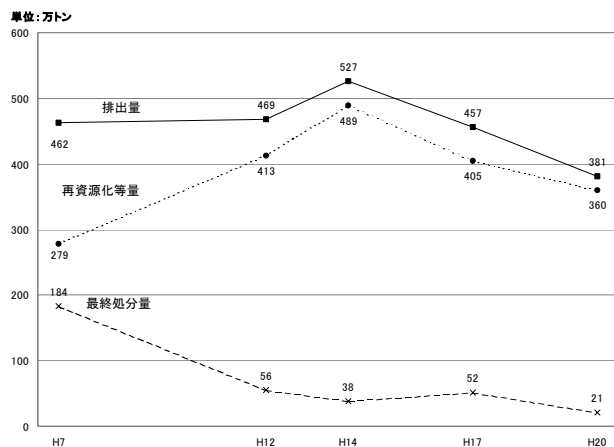


図1. 建設廃棄物の排出量、再資源化等量及び最終処分量の経年変化

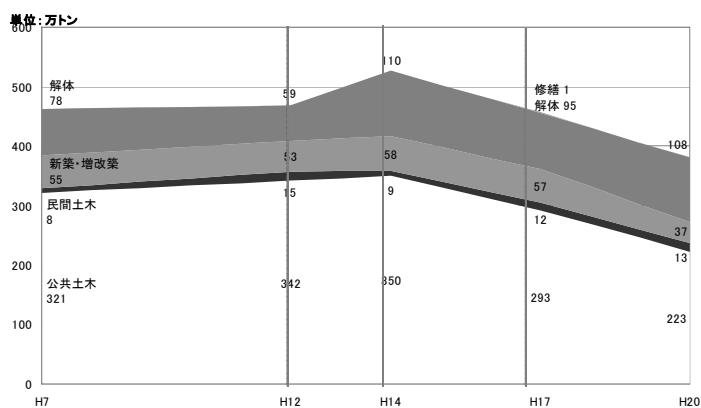


図2. 建設廃棄物の工事区分別排出量の経年変化

参考1

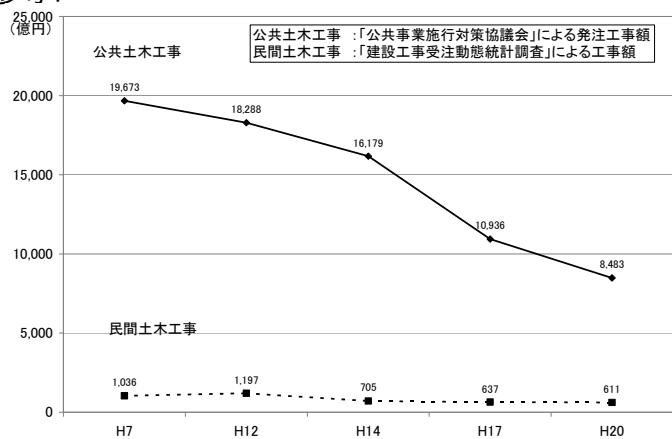


図3. 工事契約額(公共、民間土木工事)の経年変化

参考2

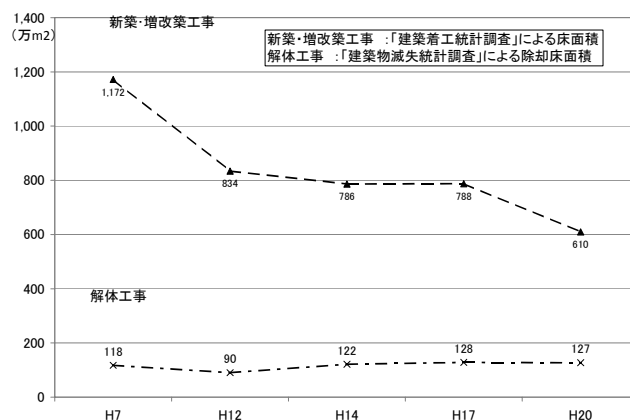


図4. 延床面積(建築工事)の経年変化

2. 再資源化率等の状況 関連資料

(1)建設廃棄物の再資源化率等

- ・コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊は、平成 12 年度以降高い再資源化率を保っている。
- ・建設発生木材(再資源化等率)は、平成 12 年度以降上昇傾向にある。
- ・建設汚泥(再資源化率、再資源化等率)は、平成 14 年度から平成 20 年にかけて上昇した。
- ・建設混合廃棄物(排出量)は、概ね減少傾向にある。

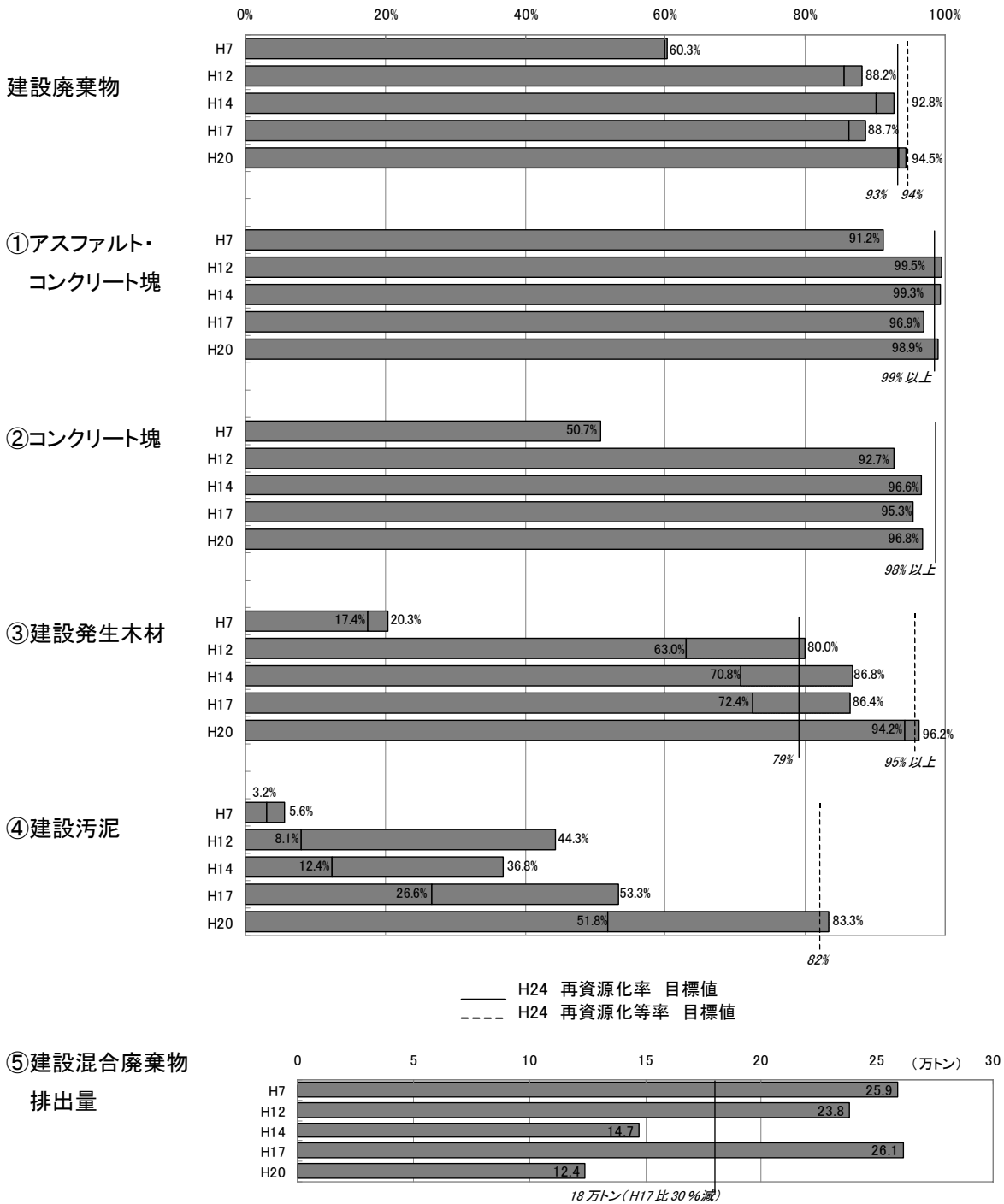


図5. 建設廃棄物の品目別再資源化・縮減化率

—— H24 排出量 目標値

(2)利用土砂の建設発生土利用率

・利用土砂の建設発生土利用率は、減少傾向にある。

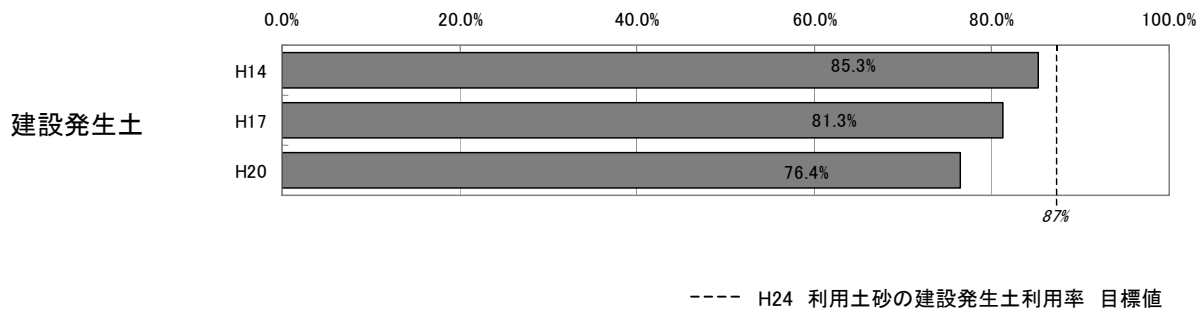


図6. 利用土砂の建設発生土利用率

(3)建設廃棄物の品目別再資源化率等

表5. 品目別再資源化率、再資源化等率

		場外排出量 ①+②+③			(単位:万トン)	
		①再資源化率	②輸送量	③最終処分量	再資源化率	再資源化等率
H7	アスファルト・コンクリート塊	196	179	0	17	91.2%
	コンクリート塊	181	92	0	89	50.7%
	建設汚泥	32	1	1	30	3.2%
	建設混合廃棄物	26	1	0	25	5.6%
	建設発生木材	24	4	1	19	17.4%
H12	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	3	1	0	2	20.3%
	建設廃棄物全体	462	277	2	184	60.0%
	建設廃棄物全体					60.3%
	アスファルト・コンクリート塊	195	194	0	1	99.5%
	コンクリート塊	192	178	0	14	92.7%
H14	建設汚泥	15	1	5	8	44.3%
	建設混合廃棄物	24	2	1	21	8.1%
	建設発生木材	37	23	6	7	63.0%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	6	2	0	4	80.0%
	建設廃棄物全体	469	401	12	56	85.6%
H17	アスファルト・コンクリート塊	191	189	0	1	88.2%
	コンクリート塊	252	243	0	9	96.6%
	建設汚泥	15	2	4	10	12.4%
	建設混合廃棄物	15	2	3	10	36.8%
	建設発生木材	48	34	8	6	70.8%
H20	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	6	4	0	2	86.8%
	建設廃棄物全体	527	474	14	39	90.1%
	建設廃棄物全体					92.8%
	アスファルト・コンクリート塊	146	141	0	4	96.9%
	コンクリート塊	212	202	0	10	95.3%
H20	建設汚泥	10	3	3	5	26.6%
	建設混合廃棄物	26	2	2	22	53.3%
	建設発生木材	44	32	6	6	72.4%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	18	13	1	5	86.4%
	建設廃棄物全体	457	394	12	52	86.2%
H20	アスファルト・コンクリート塊	126	124	0	1	98.9%
	コンクリート塊	191	185	0	6	96.8%
	建設汚泥	10	5	3	2	51.8%
	建設混合廃棄物	12	3	0	9	83.3%
	建設発生木材	38	34	1	1	94.2%
H20	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	6	4	0	1	96.2%
	建設廃棄物全体	381	355	4	21	93.3%
	建設廃棄物全体					94.5%

注)四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。
再資源化率:①÷(①+②+③)
再資源化等率:①×②÷(①×②+③)

単位:万トン

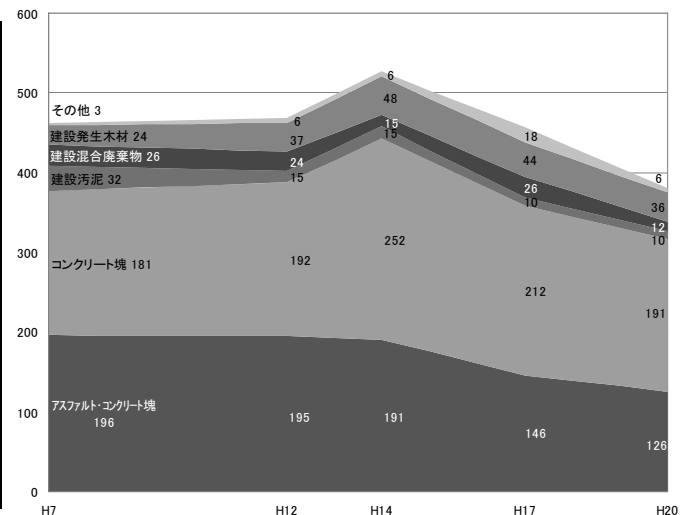


図7. 品目別建設廃棄物の排出量

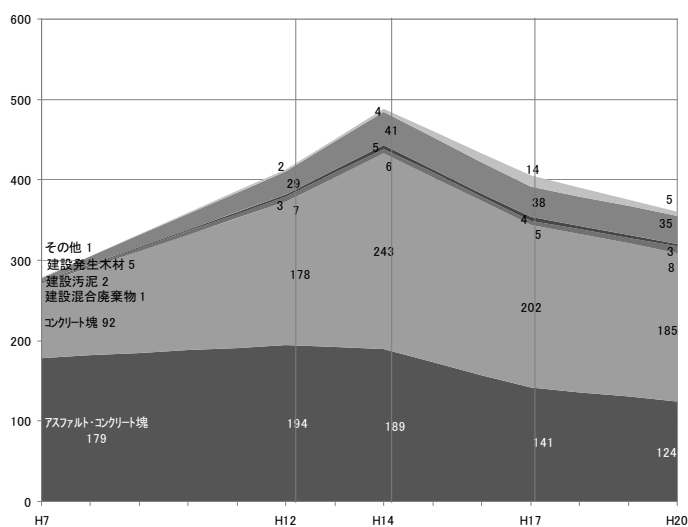


図8. 品目別再資源化等量

単位:万トン

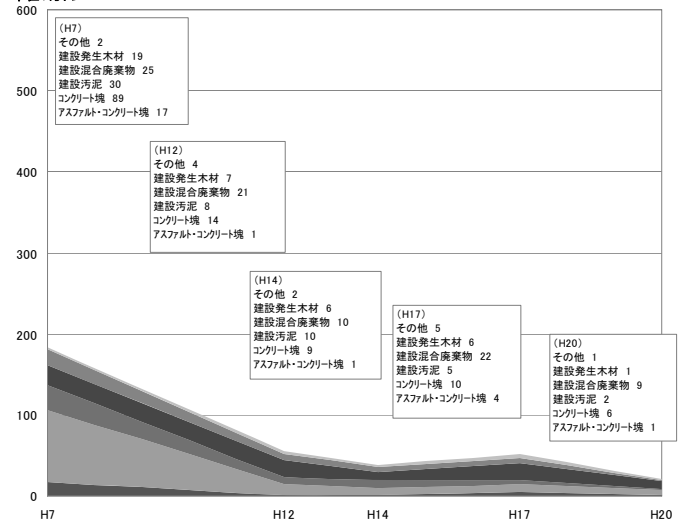


図9. 品目別最終処分量

(4)建設発生土の搬出量及び土砂利用搬入量

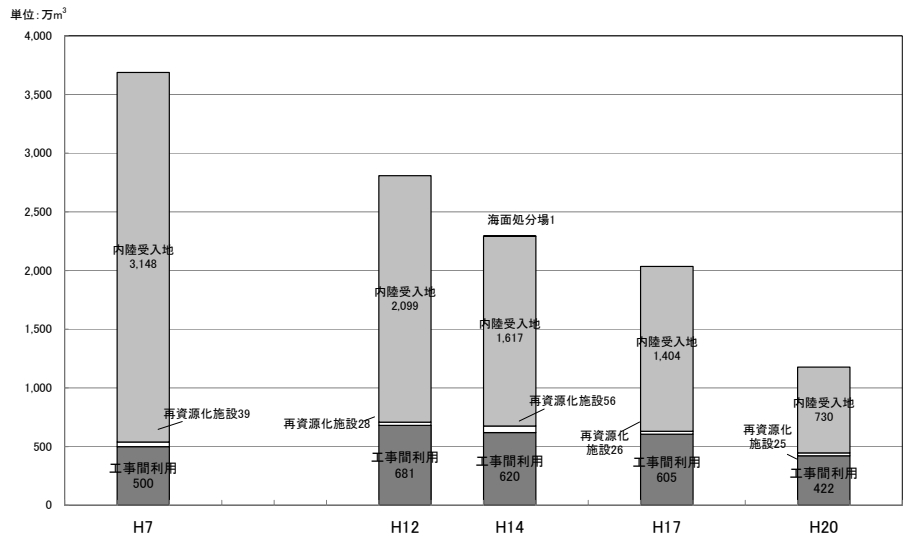


図10. 建設発生土搬出状況

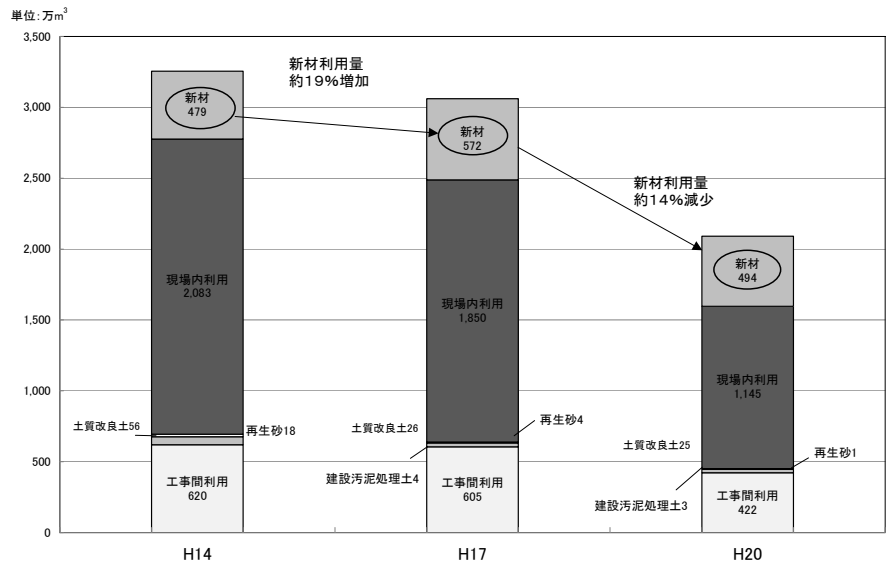


図11. 土砂利用搬入状況

表6. 利用土砂の搬入利用状況

(単位: 万m³)

	平成7年度	平成12年度	平成14年度	平成17年度	平成20年度
土砂利用量	1,751	1,659	3,256	3,061	2,090
②工事間利用	500	681	620	605	422
③土質改良土	39	28	56	26	25
⑥建設汚泥処理土	0	0	0	4	3
⑦再生砂	13	7	18	4	1
⑧新材	1,198	697	479	572	494
⑨搬入土砂利用量	1,751	1,413	1,173	1,211	945
⑩現場内利用		246	2,083	1,850	1,145
利用土砂の建設発生土利用率 (②+③+⑥+⑦+⑩)/(⑨+⑩)	31.6%	58.0%	85.3%	81.3%	76.4%

注 1: 平成7年度は現場内利用量を調査していない。
注 2: 平成12年度の現場内利用量は、100%現場内完結工事を含まない。
注 3: 丸囲いの番号は、図15. 建設発生土搬出及び土砂利用搬入状況の番号と整合している。

地方ブロック別の建設副産物再資源化等状況

表7. 北海道における建設副産物再資源化等状況

(単位:%)

	北海道	全国
アスファルト・コンクリート塊	98.9 (96.9)	98.4 (98.6)
コンクリート塊	96.8 (95.3)	97.3 (98.1)
建設発生木材 (縮減除く)	94.2 (72.4)	80.3 (68.2)
建設発生木材 (縮減含む)	96.2 (86.4)	89.4 (90.7)
建設汚泥 (縮減除く)	51.8 (26.6)	69.8 (47.9)
建設汚泥 (縮減含む)	83.3 (53.3)	85.1 (74.5)
建設混合廃棄物 排出量 (万トン)	12.4 (26.1)	267.0 (292.8)
建設廃棄物全体	94.5 (88.7)	93.7 (92.2)
利用土砂の建設発生土利用率	76.4 (81.3)	78.6 (80.1)

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

注1: 1段目は、平成20年度の値

2段目の()は、平成17年度の値

注2: 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

【各建設副産物の再資源化等状況の算出方法】

- ・アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊：
再資源化率＝（再使用量＋再生利用量）／排出量
- ・建設発生木材（縮減除く）：
再資源化率＝（再使用量＋再生利用量＋熱回収量）／排出量
- ・建設発生木材（縮減含む）：
再資源化等率＝（再使用量＋再生利用量＋熱回収量＋縮減量(焼却による減量化量)）／排出量
- ・建設汚泥（縮減除く）：
再資源化率＝（再使用量＋再生利用量）／排出量
- ・建設汚泥（縮減含む）：
再資源化等率＝（再使用量＋再生利用量＋縮減量(脱水等による減量化量)）／排出量
- ・土砂（現場内利用含む）：
利用土砂の建設発生土利用率＝（土砂利用量のうち土質改良を含む建設発生土利用量）／土砂利用量
※土砂利用量とは、搬入土砂利用量＋現場内利用量である。
また、現場内利用量については、100%現場内完結工事を含めます。